NIE実践報告

1．タイトル：☆新聞から資料活用、表現について学ぼう

2．学校名

群馬県前橋市立元総社中学校

3．実践者名（代表者名）

林　信也

4．学年

第2学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

2年生選択授業A･社会科･歴史的分野　21人

6．単元（本時の学習課題）名

見出しに着目した新聞の学習を生かし、歴史新聞を作ろう(明治をつくった人々ー維人伝ー)

7．目標（狙い）

新聞記事の見出しを予想し合う活動を通して、新聞のよさや見出しの有用性に気づき、課題追究過程における資料活用や表現に生かす。

8．評価の視点

新聞(の見出し)の有用性に気づいたり、そこから新聞について関心をもったりできたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

オリエンテーション･課題設定(1時間)～新聞(の見出し)を活用した授業(1時間)～課題追究(4時間)～表現(新聞作り･6時間)～交流･まとめ(2時間)

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

(1)本主題のねらいをとらえ、自分の課題(調べたい人物とその理由)をつかむ。(1時間)
(2)新聞記事の見出しを予想し合う活動を通して、新聞の有用性に気づく。(1時間)
(3)各自の課題(明治をつくった人物)を追究する。(4時間)
(4)追究内容を歴史新聞として表現する。(6時間)
(5)ア　歴史新聞を発表し合い、相互の追究内容の共有を図るとともに表現のよさを見取る。
　イ　明治という時代について考える。　(2時間)
(留意点)
･取り扱う記事や見出しは、比較的見出しを予想するためのヒントが得やすいものを選ぶ。
･生徒が見取った新聞や見出しの有用性やよさは必ずワークシート等から確認し合うようにする。
･新聞作りでは、追究したことを効果的に表現するために、特にトップ記事の見出しに視点を当て、リード～本文と紙面構成を段階的に工夫していくよう働きかける。
･新聞の発表後、コンテストを行い、図書委員会のNIEコーナーでの校内展示を実施する。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

･新聞の見出しがないと、読むのが大変で内容が伝わりづらい事がわかった。絶対に必要なものだと思った。
･みんなからもいい見出しが出ていた。前より新聞というものに興味がもてた。
･見出しを考える記者の人たちのすごさを実感できた。　など

12．成果と課題

見出しに着目し、ゲーム的要素を取り入れながら、その紙面構成や表現を見直すことによって、生徒達のこれまでの新聞の見方に一石を投じられたのではないかと考える。それは、後日作成された新聞の、特に見出しのできばえに反映されてきた。今回の実践を起点に、一層様々な場面や手法で新聞を活用していく機会を増やしていきたいと考える。